

# 誰でも手軽に取り組むことができる！！ 開発教育・国際理解教育のアクティビティ案

- 想定される学年：小学校高学年～中学校
- 科目：総合の時間
- 全体を通した目的：教育の負の連鎖に気がつかせ、そこから抜け出す方法を考える

★授業をするうえで大切にしたいこと

- ・子供が「えっ?！」と思う、葛藤する、考えること
- ・答えを伝えることよりも、問いかける、引き出すという学習

→引き出すうえでの心構え・ポイント：少人数グループにすることで、発言しやすい雰囲気を初めから作る

順番	内容	狙い・ポイント	JICAのリソース
導入	『つながりを感じる』 ・フィリピン、ウガンダについて知っていることを問いかける -場所 -輸入品(フィリピン:バナナ、ウガンダ:コーヒー)などの身近な「モノ」 -スポーツ(ウガンダ:陸上競技でオリンピック金メダリストがいる)など	・フィリピン、ウガンダとのつながりを感じ、これから始めるアクティビティを“他人事で終わらせない”ための工夫をする	フォトランゲージ(★1)
1	『写真を見る、考える』 ・学校に通わず働いている子どもたちの写真を見せ、問いかける -どこの国だろう? -どんな場所だろう? -日本に住む子供たち(自分)との違いはなんだろう? -ここに写っている子供は何をして(考えて)いるのだろうか? -どんな暮らしをしているのだろうか? など  ・3～4人のグループで、気付いたこと、考えたことを共有する  ●見せ方:スクリーンに映してみんなで見る、グループに3枚一気に配る、グループに別々の写真を1枚配る など	・同じ年くらいの子どもが、日本にいる自分たちとは違う環境にいる写真を見せることで、関心を高める ・児童、生徒の発言は自由にしてもらう	・ウガンダ ・フィリピン  写真: JICAグローバル教育コンクール(★2) 2015受賞作品より
2	『発表』 ・グループで意見を全体で発表する	・学校に行けない子どもたちがいることを認識する	
3	『問いかけ:学校に行けないとどういことが生じるのだろうか?』	・他の問いかけ:『なぜ、学校に行けないのだろうか?』 ・学校に行けない子供が世界にどのくらいいるかクイズを出してもよい	
4	『原因→結果の関係となるよう考える』 ・“負の連鎖”のカードを配り3～4人のグループで考える	・途上国にある問題を点として知る ・カードとカードの繋がりを考える	
5	『“負の連鎖”ができる』	・1つの問題が、他の問題へと連鎖していることに気がつく ・用意されたカードに項目が足りない場合は空白のカードを使用する	カードワーク: 教育が受けられないことで生じる「負の連鎖」を考える
6	『どうしたら“負の連鎖”から抜け出せるのかをグループで考える』 ・グループ内で気付いたこと、考えたことを自由に話し合う	・何れかのカードをピックアップして抜け出せるかを考える ・途上国の人が独力で抜け出すことが難しいことに気がつく ・抜け出す方法が多く出るようなら、具体的に「誰が」「どのような方法で」連鎖を断ち切ることができるのか、話を深める	資料: JICA国際理解教育実践資料集(★3)より
まとめ	『共有・発表』 ・アクティビティ全体を通して感じたこと考えたことグループ内で共有する ・自分たちができることをグループ内で話し合う ・全体で発表する		
振り返り	『次への展開』	・全体発表の中から次への展開を決める ・具体的にどんな国際協力が行われているか調べる ・児童労働の話から身近に出来るフェアトレードにつなげるなど	

## ★1 フォトランゲージ

写真やイラスト等を使って行う参加型のアクティビティ。写真から情報やメッセージを読み取り、他の参加者と話し合うことで、いろいろな気づきや発見が生まれる。

素材があれば誰でも手軽に取り組むことができる。

※参考: DEAR開発教育協会(フォトランゲージの効果等について説明)

<http://www.dear.or.jp/activity/menu05.html>

## ★2 JICAグローバル教育コンクール(過去の受賞作品も閲覧いただけます)

[http://www.jica.go.jp/hiroba/program/apply/global\\_edu/index.html](http://www.jica.go.jp/hiroba/program/apply/global_edu/index.html)

## ★3 JICA国際理解教育実践資料集—世界を知ろう! 考えよう! —(他の実践資料も閲覧いただけます)

<http://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/index.html#kokusai>

●フォトランゲージ用写真（JICAグローバル教育コンクール2015受賞作品より）

●この写真のポイント●

学校に通うことよりも、生活のために働いたり、家事をしなければ生きていけないことがわかる



ウガンダ(ムベンデ県) 撮影:加藤 克也

汲んだ水を運ぶ兄弟姉妹。頭に乘せて運んでいる水は約20リットル。1日数回、丘の下にある井戸から水を汲んでくるのは子どもたちの仕事。

フィリピン 撮影:鈴木 彩花

ゴミを拾って、生活をしているスカベンジャーの子供。



フィリピン 撮影:鈴木 彩花

ゴミ集積場のスカベンジャーの子供達。

小学校に入学すると同時にここで働かなくてははいけない。悪臭と炎天下の中で1日に稼げる収入は100円にも満たない。

●負の連鎖(例)

